

8. 金堂 薬師如来を安置。

本堂の西側に立つ金堂は、江戸時代前半、1649年の建築物。

寄棟造の仏堂で、桁行（正面）4間、梁間（奥行）3間。

金堂という名ではありますが、隣の本堂と比べるとかなり小ぶりの建物です。



堂内には薬師如来が安置されていることから、薬師堂、あるいは、薬師金堂とも呼ばれます。

日光・月光の両菩薩、十二神将もそろっています。

9. 大師堂（護摩堂）

真言宗の宗祖、弘法大師空海の像（御影）を祀る仏堂。

江戸時代の伽藍が残る境内の中、この建物は戦後昭和期の再建。

ただし、本尊の弘法大師御影は、江戸時代前半の1647年に造立されたものです。

また、ここには、平成30年の地震で被災・解体された不動堂の本尊、不動明王も安置されています。



旧・不動堂の役目も果たしている現在の太師堂、「護摩堂」とも呼ばれています。